

### 第4問

唐の白居易は、皇帝自らが行う官吏登用試験に備えて一年間受験勉強に取り組んだ。その際、自分で予想問題を作り、それに対する模擬答案を準備した。次の文章は、その【予想問題】と【模擬答案】の一部である。これを読んで、後の問い(問1～7)に答えよ。なお、設問の都合で本文を改め、返り点・送り仮名を省いたところがある。(配点 50)

#### 【予想問題】

問、自<sup>リ</sup>古<sup>いにしへ</sup>以<sup>テ</sup>来<sup>ル</sup>、君<sup>タル</sup>者<sup>ク</sup>無<sup>ル</sup>不<sup>ハ</sup>思<sup>ハ</sup>求<sup>ム</sup>其<sup>ノ</sup>賢<sup>ヲ</sup>、賢<sup>ナル</sup>者<sup>ナシ</sup>罔<sup>ル</sup>不<sup>ハ</sup>思<sup>ハ</sup>効<sup>いたス</sup>其<sup>ノ</sup>用<sup>ヲ</sup>。  
 然<sup>レドモ</sup>兩<sup>ふたツナガラ</sup>不<sup>ル</sup>相<sup>あひ</sup>遇<sup>ハ</sup>、其<sup>ノ</sup>故<sup>ハ</sup>何<sup>ゾ</sup>哉。今<sup>スルニ</sup>欲<sup>ム</sup>求<sup>ム</sup>之<sup>ヲ</sup>、其<sup>ノ</sup>術<sup>ハ</sup>安<sup>クニ</sup>在<sup>リヤ</sup>。

#### 【模擬答案】

臣<sup>(注1)</sup>聞<sup>ク</sup>、人<sup>タル</sup>君<sup>者</sup>無<sup>ク</sup>不<sup>ル</sup>思<sup>ハ</sup>求<sup>ム</sup>其<sup>ノ</sup>賢<sup>ヲ</sup>、人<sup>タル</sup>臣<sup>者</sup>無<sup>シト</sup>不<sup>ル</sup>思<sup>ハ</sup>効<sup>ス</sup>其<sup>ノ</sup>用<sup>ヲ</sup>。然<sup>リ</sup>而<sup>シテ</sup>君<sup>ハ</sup>求<sup>メ</sup>賢<sup>ヲ</sup>而<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>ハ</sup>、臣<sup>ハ</sup>効<sup>サ</sup>用<sup>ヲ</sup>而<sup>レ</sup>無<sup>ク</sup>由<sup>ル</sup>者<sup>、</sup>豈<sup>チ</sup>不<sup>レ</sup>以<sup>テ</sup>貴<sup>ク</sup>賤<sup>ク</sup>相<sup>あ</sup>懸<sup>ハ</sup>、  
 朝<sup>(注2)</sup>野<sup>ニ</sup>相<sup>あ</sup>隔<sup>ハ</sup>、堂<sup>(注3)</sup>遠<sup>ク</sup>於<sup>テ</sup>千<sup>リ</sup>里<sup>、</sup>門<sup>(注4)</sup>深<sup>ク</sup>於<sup>テ</sup>九<sup>重</sup>。

臣(イ)以為(ウ)、求(ムル)賢(ヲ)有(リ)術(ウ)、并(ツ)賢(ヲ)有(リ)方(ヲ)。方術者、各(おの)審(つまび)其(ノ)族類(ヲ)、使(ムル)之(ヲ)推(ヲ)薦(セ)而已(ナ)。近(ク)取(レバ)諸(コレヲ)喻(たとへ)其(レ)猶(ホ)線(いとト)与(ノ)矢(ヲ)也。線(ハ)因(リテ)針(ニ)而入(リ)、矢(ハ)待(チテ)弦(ヲ)而發(ス)。雖(モ)有(リト)線(ニ)矢(ヲ)、苟(クモ)無(クンバ)針(ニ)弦(ヲ)、求(ムルモ)自(ラ)致(スラ)焉(ナ)、不(ル)可(カラ)得(ル)也。夫(レ)必(ズ)以(テスル)族類(ヲ)者、蓋(シ)賢(ヲ)愚(ヲ)有(リ)貫(クコト)、善(ヲ)惡(ヲ)有(リともがら)倫(ヲ)、若(シ)以(テ)類(ヲ)求(ムレバ)、亦(タ)猶(ホ)水(ノ)流(レ)湿(ニ)、火(ノ)就(クガ)燥(ニ)、自然(ニ)之理(ニ)也。

(注) 1 臣——君主に対する臣下の自称。

2 朝野——朝廷と民間。

3 堂——君主が執務する場所。

4 門——王城の門。

(白居易『白氏文集』による)

問1 波線部(ア)「無<sub>レ</sub>由」、(イ)「以<sub>レ</sub>為」、(ウ)「弁」のここでの意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それ

ぞれ一つずつ選べ。解答番号は **29** ～ **31**。

(ア) 「無<sub>レ</sub>由」

**29**

- ⑤ 信用がない
- ④ 意味がない
- ③ 原因がない
- ② 伝承がない
- ① 方法がない

(イ) 「以<sub>レ</sub>為」

**30**

- ⑤ 命ずるに
- ④ 目撃するに
- ③ 行うに
- ② 同情するに
- ① 考えるに

(ウ) 「弁」

**31**

- ⑤ 弁別するには
- ④ 弁論するには
- ③ 弁解するには
- ② 弁護するには
- ① 弁償するには

問2 傍線部A「君者無<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>思<sub>レ</sub>求<sub>ニ</sub>其賢、賢者罔<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>思<sub>レ</sub>効<sub>ニ</sub>其用」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうち

から一つ選べ。解答番号は 32。

- ① 君主は賢者の仲間を求めようと思っており、賢者は無能な臣下を退けたいと思っている。
- ② 君主は賢者を顧問にしようと思っており、賢者は君主の要請を辞退したいと思っている。
- ③ 君主は賢者を登用しようと思っており、賢者は君主の役に立ちたいと思っている。
- ④ 君主は賢者の意見を聞こうと思っており、賢者は自分の意見は用いられまいと思っている。
- ⑤ 君主は賢者の称賛を得ようと思っており、賢者は君主に信用されたいと思っている。

問3

傍線部B「豈不以貴賤相懸、朝野相隔、堂遠於千里、門深於九重」の返り点の付け方と書き下し文との組合

せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 33。

- ① 豈不<sub>レ</sub>以<sub>二</sub>貴賤相懸<sub>一</sub>、朝野相隔、堂遠<sub>二</sub>於千里<sub>一</sub>、門深<sub>二</sub>於九重<sub>一</sub>  
豈に貴賤相懸<sup>あひへだ</sup>たるを以てならずして、朝野相隔たり、堂は千里よりも遠く、門は九重よりも深きや
- ② 豈不<sub>レ</sub>以<sub>二</sub>貴賤相懸<sub>一</sub>、朝野相隔、堂遠<sub>二</sub>於千里<sub>一</sub>、門深<sub>二</sub>於九重<sub>一</sub>  
豈に貴賤相懸たり、朝野相隔たるを以てならずして、堂は千里よりも遠く、門は九重よりも深きや
- ③ 豈不<sub>レ</sub>以<sub>二</sub>貴賤相懸<sub>一</sub>、朝野相隔、堂遠<sub>二</sub>於千里<sub>一</sub>、門深<sub>二</sub>於九重<sub>一</sub>  
豈に貴賤相懸たり、朝野相隔たり、堂は千里よりも遠きを以てならずして、門は九重よりも深きや
- ④ 豈不<sub>下</sub>以<sub>二</sub>貴賤相懸<sub>一</sub>、朝野相隔、堂遠<sub>二</sub>於千里<sub>一</sub>、門深<sub>中</sub>於九重<sub>上</sub>  
豈に貴賤相懸たり、朝野相隔たり、堂は千里よりも遠きを以て、門は九重よりも深からずや
- ⑤ 豈不<sub>下</sub>以<sub>二</sub>貴賤相懸<sub>一</sub>、朝野相隔、堂遠<sub>二</sub>於千里<sub>一</sub>、門深<sub>中</sub>於九重<sub>上</sub>  
豈に貴賤相懸たり、朝野相隔たり、堂は千里よりも遠く、門は九重よりも深きを以てならずや

問4 傍線部C「其猶<sub>レ</sub>線与<sub>レ</sub>矢也」の比喩は、「線」・「矢」のどのような点に着目して用いられているのか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

34。

- ① 「線」や「矢」は、単独では力を発揮しようとしても発揮できないという点。
- ② 「線」と「矢」は、互いに結びつけば力を発揮できるという点。
- ③ 「線」や「矢」は、針や弦と絡み合って力を発揮できないという点。
- ④ 「線」と「矢」は、助け合ったとしても力を発揮できないという点。
- ⑤ 「線」や「矢」は、針や弦の助けを借りなくても力を発揮できるという点。

問5

傍線部D

**X**

以類至について、(a)空欄

**X**

に入る語と、(b)書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の

①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **35**。

- ① (a) 不 (b) 類を以てせずして至ればなり
- ② (a) 何 (b) 何ぞ類を以て至らんや
- ③ (a) 必 (b) 必ず類を以て至ればなり
- ④ (a) 誰 (b) 誰か類を以て至らんや
- ⑤ (a) 嘗 (b) 嘗<sup>かつ</sup>て類を以て至ればなり

問6 傍線部E「自然之理也」はどのような意味を表しているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 36。

- ① 水と火の性質は反対だがそれぞれ有用であるように、相反する性質のものであってもおのおの有効に作用するのが自然であるということ。
- ② 水の湿り気と火の乾燥とが互いに打ち消し合うように、性質の違う二つのものは相互に干渉してしまうのが自然であるということ。
- ③ 川の流れが湿地を作り山火事で土地が乾燥するように、性質の似通ったものはそれぞれに大きな作用を生み出すのが自然であるということ。
- ④ 水は湿ったところに流れ、火は乾燥したところへと広がるように、性質を同じくするものは互いに求め合うのが自然であるということ。
- ⑤ 水の潤いや火による乾燥が恵みにも害にもなるように、どのような性質のものにもそれぞれ長所と短所があるのが自然であるということ。



問7 【予想問題】に対して、作者が【模擬答案】で述べた答えはどのような内容であったのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

37。

- ① 君主が賢者と出会わないのは、君主が賢者を採用する機会が少ないためであり、賢者を求めるには採用試験をより多く実施することによって人材を多く確保し、その中から賢者を探し出すべきである。
- ② 君主が賢者と出会わないのは、君主と賢者の心が離れているためであり、賢者を求めるにはまず君主の考えを広く伝えて、賢者との心理的距離を縮めたくて人材を採用するべきである。
- ③ 君主が賢者と出会わないのは、君主が人材を見分けられないためであり、賢者を求めるにはその賢者が党派に加わらず、自分の信念を貫いているかどうかを見分けるべきである。
- ④ 君主が賢者と出会わないのは、君主が賢者を見つけ出すことができないためであり、賢者を求めるには賢者のグループを見極めたくて、その中から人材を推挙してもらうべきである。
- ⑤ 君主が賢者と出会わないのは、君主が賢者を受け入れないためであり、賢者を求めるには幾重にも重なっている王城の門を開放して、やって来る人々を広く受け入れるべきである。